

安曇野市公民館報

安曇野市
中央公民館
No.9 2012.11.7
TEL62-4565

心合わせて市民運動会

穂高地域800人が楽しく



ただ今、奮闘中



10月14日穂高地域15地区の市民が、穂高東中学校の校庭で「カンころがしリレー」「むかでリレー」「綱引き」など市民運動会を楽しみました。

「はやく一升瓶」小学生を交えた4人が、瓶に水を満杯にするリレー競争。「難しかったが楽しかった」「ゆっくりと言いつつ聞かせながら走ったがこぼしていた」と話しながら、リレーする仲間にも声援も忘れない。保育・幼稚園児の「玉入れ競技」は「負けちゃった、負けちゃった」と玉をかき集めている女の子。白組が二回連続して勝ちました。

どの地区も大釜でとん汁を用意して振舞っていました。パソコンで計算をして調理内容を決めた地区や、前日から下ごしらえをした地区もあり、いい味になったと自慢をしながら、得点種目になると大声で応援をしていました。なお、他地域は21日に行われました。



力を合わせて 耳塚優勝

明科公民館長再任

11月1日付で明科公民館長に浅見郁子さんが再任されました。(任期2年)



明科公民館長
浅見 郁子

古きを尋ねて

⑦大庄屋 山口家

山口家の現在の屋敷は、江戸時代初期に岩原地区内から移転して建てられた三百数十年の歴史をもつ旧家である。当時、岩原村の庄屋で、10ヶ村を統括する郷村組織の長尾組の大庄屋を任命されていた。松本藩主が、鷹狩りや茸狩りに出かけた折り、休息のためにたびたび逗留していた。

本棟造りの母屋を中心として、土蔵、木倉、離れ、及び幾つかの門がある。玄関は12畳敷で、元禄



旧信濃教育会館
西田幾太郎碑前

ふるさと講座

安曇野の歴史発見

三郷公民館は9月19日ふるさと講座「豊科地域の歴史探訪」を開き20人余が参加した。千國温公民館長を講師に、旧信濃教育会館や法蔵寺等を訪ね、見慣れた隣町の風景の中に安曇野の歴史を再発見した。



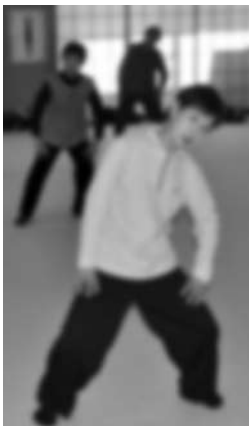
絵：加々美 豊
花：アキノゲシ



私は一生懸命

三郷社協の練功18法教室や公民館の太極拳クラブなどの指導で日程が埋まっている。土日は家事や休みの時間にしてはいるが「身体を動かしているほうが体調が良い」と笑う。各地の教室ではそれぞれ20人程の受講者を指導しているが、資格を取った生徒も何人が育っている。人間の気を動かす練功18法は導引養生功の準備体操とも言えるもので年輩の方でも取り組める保健、医療の健康体操なので多くの人に始めて欲しいと思う。

以前、バレーボールで膝を痛めて治療していたところ、知人に勧められて太極拳を始め20年になる。始めてから数年で医者に通わ



太極拳・養生功で健康な人生を
日本武術太極拳連盟公認指導員
三郷明盛 植野和子さん

三郷の絵たより風景



コスモス便り

絵たより講座を開いている三郷図書館は9月20日、野外実習を行った。三郷地区北東端にある拾ヶ堰でんしゃや広場で約20人の参加者が、スケッチによる絵手紙の製作に取り組んだ。夏の名残りの暑さの中、秋の景色を描いていた。

楽しい菊作り講座



より美しく

10月9日に第4回目の「楽しい菊作り講座」を開催。「仕上げの整姿について」という内容で、菊を美しくみせるために受講生7人が輪台のつけ方などを学んだ。

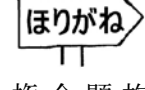
宝暦年間(1695~1756)に建築された書院造りの部屋が7部屋あり藩主に従ってきた家臣たちの静養場所にあてられた。

庭園は、同じく江戸時代、天和・貞享年間(1681~1688)に豪荘な書院の北庭として造られ、本庭を見渡せる七つの部屋からは、それぞれの趣をもつように設計されている。池泉鑑賞式庭園で、中央の池泉は心字の形を表し、東西にやや長く、出島、西の亀島、板橋、切石橋、北東の滝石は桃山期の手法で組み込まれている。北西部に五重塔を配し、後方の杉、檜の借景が庭園の奥深さを醸し出している。

なくても良い程度になった。

武術と健康法を併せ持つ体操として地域の人に広めていきたい。背中を緩めて頭のとっぺんから尾骨まで、身体の真ん中の線で正しく立つ。バランスが悪いと異常が起る。足の裏をしつかり付け、地球をつかむ。立ち姿、姿勢が大事と話す。

家族でとった金メダル



荻原健司さん

堀金公民館他10団体は実行委員会を結成して「堀金地域家庭教育講演会」を8月25日、総合体育館で開いた。ノルディックスキー複合でオリンピック2大会連続金メダリストの荻原健司さんを招き「家族でとった金メダル」と題した講演に、200人余が聴講した。世界選手権やワールドカップでも金

屋敷は約二千坪(約6600平方)あり、当時の姿のまま保存されている庭園は、長野県の名勝に指定されている。外観は、東に塀、南と西は石垣、北は山続きで、私有林に繋がっている。正門は切り妻造り平入り棧瓦葺きで四代前に冠木門から改築した。屋根の棟には、鯨が載る重厚で気品のある門構えで、武家屋敷を彷彿させる。

(堀金岩原地)



熱心に聞き入るみなさん

メダルを獲得し「キング・オブ・スキー」と称賛された荻原さんは「ジュニア世代は、厳しい指導より楽しさを体験させることが大切」「子どもが傾スキの楽しさを覚えたことが続けられた理由」と言う。

9/25 三郷地域探訪

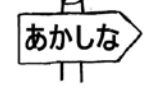
穂高公民館文化講座



映画「神様のカルテ」
舞台、三柱神社!

三郷地域の歴史と文化を訪ねる文化講座が行われた。17人がバスに同乗し、好天のなか探訪を楽しんだ。住吉神社では神殿にも上がり、百人一首の絵馬等を拝見した。

9/19 明科いいまちをつくろう



明科公民館では、「明科いいまちをつくろう」をテーマに、安曇野市「協働のまちづくり」に向けて、ワークシヨップによる話し合いを、すでに2回持っている。

「人」のテーマでは、「互いの共通点を見出す相互理解の心を持つ」「人を育てていくには」など、活発な考えが出された。

今回は具体化するための話し合いがされる予定である。

人育てるには



万人巻首

短歌

常念の山をみつめて歩み行く
共に立ちなんふるさと地に
柔らかなきこころもちたし手ぬぐいは
玉の汗をも肌にも優しい

柏原 勝野 伯一
柏原 竹内香代子

淡あわとそばの芽出でて筋通り
七き母織りし木綿編に似る
訃報受けし従兄弟との旅思い出づ
コヒーの木鉢植えにあり

住吉 児嶋たかの
下長尾 鷺坂 吟子

犬連れて腕章を巻き児童等に
声掛けすればこぼる笑顔
野良帽の頸ひも伝う汗霏
振り落しつづ菜地を耕す

一日市場 青山 洋子
明科区 加々美典子

—俳句・短歌の作品をお寄せください—
〒399-7102 安曇野市明科中川手6824番地1
教育委員会社会教育課内館報編集事務局 宛
TEL.62-4565 FAX.62-3525
E-mail:shakaikyoku@city.azumino.nagano.jp
次号は3月6日発行、2月8日締め切りです。

地区公民館だより

明科地域 中耕地地区公民館

長峰山の麓を南北につなぐ集落の中に中耕地地区があります。段丘にあるため、北アルプスを背景に安曇野を展望でき、近くには安曇野花火が行われる「御宝田水のふるさと公園」があるなど自然環境に恵まれている地区です。

当地区公民館は、館長を含め総勢14人で運営に携わっており任期は2年。私たちは2年目ですのでいくらか余裕をもって事業を遂行できています。事業内容としては特筆するようなことをしておりませんので、今回は運営面について参考までに紹介します。

一つは、「四者懇談会」についてです。これは、宮中区、地区社協、子ども会育成会、地区公民館の4つの組織が年度始めに一堂に会し、おのおのの事業計画を持ち寄りすり合わせを行い、地区が一体となって協働で活動することをねらいとしています。地区社協に音頭をとってもらっています。この会議のおかげで「花見会」や「お盆ふれあい会」などの公民館事業には参加者も多く、世代間交流と住民のコミュニケーションづくりが成果をあげています。また、「しめなわ作り」や「三九郎」など伝

統文化継承の取り組みにおいても四者協働で楽しく行っています。こうした情報の共有化による行事の実務は地区の一体感醸成の一助になっているものと思います。

もう一つは、世帯数のわりには運営委員が多いことに加え年齢も20〜70歳代と幅広く、多種多様な人員構成となっていることです。とかく役を受けると、まずは負担感を覚えますが、こうした人員配置はそれぞれの立場や都合に配慮した運営が可能となり負担軽減につながっているのではないのでしょうか。お互いに助け合いながら、そして世代間の意思疎通を図りながら活動を展開しているところです。

計画した事業がまだ残っています。あまり無理をしないで、みんなで楽しく役目を果たしていくことにしています。

(中耕地地区公民館長 小林辰男)



お盆ふれあい会

グループ紹介

琴音会 (ことねかい)

平成15年1月、大雪の日に初めて集まり、3月に正式発足した大正琴の会。琴の音の会と書いて「ことねかい」。指導者兼代表の斉藤清子さんを中心に、会員11人、主に豊科地域に住むみなさんが、毎月2回公民館講座室に集まり、和気あいあいと練習しています。

右手のピックで弦をはじき、左手で鍵盤をおさえて音を出す大正琴。1台ではひとつの音しか出せませんが、大勢で演奏すればハーモニーが生まれます。大きさや弦の本数が違うソプラノ・アルト・テナー・ベース、4種類の大正琴で素敵な琴の音を奏でます。レパートリーも豊富で、この日は「みかんの花咲く丘」を練習していましたが、先日ビッグハットで行われた全国大会では「真つ赤な太陽」を、素敵な衣装に身を包んで演奏したと聞きました。



「今どきの子ども」という言葉を耳にするようになって久しいが、地域の子どもに接していると、ひとりひとりに伸びびとした個性が見える★純朴であったかのような、ひと昔前の自分たちを思い起こしてみると、こうはいかなかったような気がする★これが学校の教育なのか、家庭の躾なのか、地域社会のありようなの

か、さだかではない★平成17年に生まれた子どもたちは小学校1年生になる★同じ年に生まれても安曇野市は7年生で同級生とはいかないよう★また、秋が巡り、誕生日を迎える安曇野市に新しい色の風が吹いているだろうか★この機会に、新しい良さや古い良さを見つめ直してみたい。(T・Y) 山菓子

途中のお茶の時間には、持ち寄ったお茶菓子が並びました。「このお茶の時間が楽しみでね〜」と、さらに和やかな雰囲気になりました。信州ならではの風習「お茶」、この時間が大切ですよ。お琴の話だけでなく、近況報告、家族のこと、健康のこと、食べ物のことなどなどおしゃべりが弾みます。

練習再開、真剣な表情で「みかんの花咲く丘」を演奏しています。譜面は五線譜ではなく、数字で書かれていて、読み方がわかればとても簡単に演奏することができそうです。会員みなさんのチームワークで素敵なハーモニーが生み出されているのだからと感ぜました。



か、さだかではない★平成17年に生まれた子どもたちは小学校1年生になる★同じ年に生まれても安曇野市は7年生で同級生とはいかないよう★また、秋が巡り、誕生日を迎える安曇野市に新しい色の風が吹いているだろうか★この機会に、新しい良さや古い良さを見つめ直してみたい。(T・Y) 山菓子